

考古かながわ 第6号

1994年3月31日

回想『夏島貝塚発掘の話』(2)

横須賀考古学会

川上久夫

この日は後藤先生と科学朝日の近藤さんと云う記者が写真機を持って参加されていた。機材は取りあげられ、フィルムが抜かれた。下士官の一人が後藤先生に「パスポートは持っているか」と聞いた。横須賀基地のデッカー司令官からの許可で入っているので持っている訳はない。毎日バスで送迎されているので、此处が占領地の軍事基地であることすら忘れて発掘してた私達である。ともかく戦時捕虜のような姿で座られ、銃剣を持った米兵が取り囲んでおり、弁明したくても英会話ができない。無言のまま静寂の時間が一瞬過ぎた。どうなることが判らないが心配や不安感はおこらなかった。ややあって、落ち着きを取り戻すとタバコが吸いたくなった。しかしマッチがない。傍にいた米兵に「マッチを持っているか」と話し掛けた。彼は黙ってマッチを擦って火を差出したので、私も無言でタバコに火を付けた。廻りの仲間たちもおもむろにタバコを取り出して私のタバコから火を移して吸い出した。さきほどの米兵が「プレゼント」と云って一箱のマッチを私にくれた。

別の一隊は北側斜面にも行ったらしく、その貝塚を探索していた岡本(勇)さんが捕虜にな

って私たちの所へ連れてこられた。

4時近くになって、帰りのバスが迎えに来たのがこの場所から見える。運転手の鈴木君が登って来て驚いたように「川上、どうしたんだ」と声を掛けてきた。「訳なんか判らないが、こいつらに捕虜になった」と答えると、「ふざけた奴らだ」(米兵には日本語が判らない)と云って彼が「基地司令官に電話して聞け」といった内容の話しを隊長と遣り取りしていた。暫して誤解が解けて全員バスに乗って飛行場の基地まで来るように指示を受けた。それから扱いが急に丁寧になったようである。基地の事務所に着くと司令部から連絡があったらしく、士官が後藤先生に丁重に詫びを述べ、夕食を御馳走になり、軍用のキャナディアン・ウィスキーが振舞われたことを今でも覚えている。何本かのウィスキーをもらって帰った。

昭和26年9月サンフランシスコ対日講和条約で占領進駐軍は駐留軍と呼ばれるようになった。敗戦そして占領という社会状況の中での夏島貝塚の発掘調査は、戦後の縄文時代早期の編年研究に、大きな結果をもたらしたことはすでによく御承知のことであろう。

第17回神奈川県遺跡調査・研究発表会開催される

神奈川県遺跡調査・研究発表会は、県内でこの1年間発掘調査をした遺跡の中から、注目されるものを選んで毎年1回開催しており、今回で17回を迎えました。今回は秦野市文化会館小ホールを会場とし、神奈川県教育委員会の後援を受け、秦野市教育委員会との共催というかたちで実施いたしました。会場が県西部ということで、当初参加者数が気になりましたが、約350名程の参加者を得ることができました。

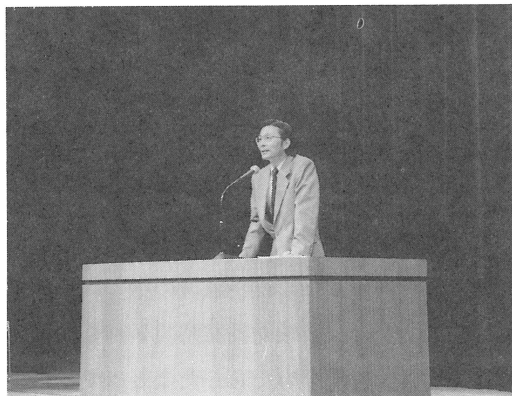
発表は午前午後に分け、11箇所の発掘調査事例についての発表がありました。間に石丸 熙東海大学教授による「中世城館遺跡について」の記念講演が行われました。

藤沢市南葛野遺跡では、先土器時代から縄文草創期・早期までの石器群が発見されました。特に早期末の棒状礫が多量に検出されています。大井町東名No.35遺跡では、縄文前期の豊富な資料が検出された。また同期の住居には、地震と思われる地割れがあり、その中に完形の浅鉢が2点伏せた状態で検出されました。小田原市久野2号墳は、横穴式石室を持つ径20m程の6世紀後半から7世紀初頭の円墳であり、今回の調査で、多量の出土遺物を得ることが出来ました。秦野市太岳院遺跡の先土器時代の調査では、秦

野盆地内で初めて先土器時代の遺跡を発見し、多量の資料を発見することができました。海老名市相模国分寺塔跡の調査は、史跡整備事業に伴う確認調査として行なわれたもので、塔基壇の構造等が解明されました。三浦市新井城址では、戦国時代の城郭址の本丸の発掘調査が行なわれ、文献の合戦記事が考古学的に裏付けられたという大きな成果を得ました。平塚市山王A遺跡は、砂丘上に立地する遺跡で、掘立柱建物址から正倉院御物と類似した、佐波理の匙が検出されました。横浜市観福寺北遺跡の調査では、弥生時代後期の朝光寺原式期の最大規模の集落を発見し、それに伴う多量の遺物を得ることができました。横須賀市小荷谷遺跡の調査では、古墳時代末期前後の一般の遺跡とはやや様相を異にする、掘立柱建物址を主体とする遺構群が検出されました。「古東海道」の東京湾渡海の拠点としての可能性が示唆される遺跡でありました。清川村宮ヶ瀬遺跡群表の屋敷遺跡の調査では、宮ヶ瀬の開拓者である井上角之丞の屋敷跡が、伝説のとおり発見されました。横浜市綱崎山横穴墓群の調査では、7世紀初頭から8世紀前半にかけての横穴墓15基が検出された。未開口であった3号墓からは1体の小児骨のみが検出されており、こどもの死を以て横穴が造られたことを示唆するものでありました。

記念講演は近年の研究動向を踏まえ、県内で近年行われた発掘調査の事例を中心にした、実に興味深いものでした。

会場が相模川を越えて開催されたのは2度目です。交通の便に多少難点はありますが、会員層を厚くするためにも、時々には県中央部から離れた所を会場にすることも必要ではないかと思われました。



記 念 講 演

横須賀市大塚古墳群現状保存 のための請願について

大塚古墳群は、別記のとおり貴重な文化財ですが、土地区画整理事業のため消滅の危機に瀕しています。そこで「大塚古墳群の現状保存のための連絡協議会」が結成され、市に対して現状保存等を求める請願を行なうことになりました。当学会にも協議会から参加要請があり、1993年第3回役員会にて慎重に検討した結果、この請願団体に別記の12団体とともに参加することにいたしました。時間的な制約もあり、

署名については役員周辺の方に御願いのみのみでしたが、御協力を賜った皆様には厚く御礼申しあげます。

なお本年1月に入り、協議会事務局より、請願書が市議会に提出され、昨年12月14日の教育経済常任委員会での審議と採決の結果、賛成4反対6で不採決となった旨の経過報告と当学会への御礼のまいりましたことを御報告申しあげます。

横須賀市大塚古墳群の現状保存を求める請願

神奈川県横須賀市池田町の標高77mの大塚台上に所在する大塚古墳群は、全長33mの前方後円墳1基と円墳2基からなる古墳群として知られてきました。1952(昭和27)年に故赤星直忠博士らによる、前方後円墳の主体部の発掘調査と墳丘の測量調査が行われ、主体部は粘土郭であり、形態的にみて古墳時代終末期の古墳群であることが判明しています。古墳の被葬者は付近の同時代の遺跡の分布等からみて、平作川流域に広がる三浦半島最大の水田地帯と都から関東平野への古東海道の要地であるこの付近を支配していたものと考えられます。

全国的にみれば、規模の小さな古墳群ではありますが、地域史や古代交通史を明らかにする上では、かけがえのない遺跡です。古墳の稀少な三浦半島では、現状で墳形を見ることができる唯一の前方後円墳を含む古墳群として、県指定史跡吉井貝塚を中心とした遺跡とともに、社会科学学習や歴史教育の教材としても、頻繁に利用されているのが現状です。

ところが、1989(平成元)年5月には、神奈川県環境影響審査会も「大塚古墳群を含む大塚山一帯を可能な限り現状のまま保存すべきであると考えられる」と審査結果を報告しているにもかかわらず、現在、一帯の土地区画整理事業が計画され、そのために破壊を前提とする発掘調査が進められています。この調査において、同時期の所産と考えられる古墳が数基発見され、大塚古墳群は少なくとも、前方後円墳2基・円墳3基からなる古墳群と、その規模・内容が訂正をされるにいたっています。この古墳群の学術的・教育的価値はさらに大きなものになってきたことができます。

このため、日本考古学協会や地元横須賀考古学会などから関係当局に現状保存の要望がなされました。しかし、土地区画整理組合は事業を優先させ、市当局もそれを追認し、この貴重な文化財を破壊消滅させる姿勢を正していません。私たちは大塚古墳群を現状保存するため、次のことを請願します。

請 願 事 項

1. 大塚古墳群を現状保存し、史跡公園として整備し、その活用をはかること。

大塚古墳群の現状保存のための連絡協議会(会長 川上久夫)

〒238 横須賀市平作6-2-6 星方

〔参加団体〕 浦賀歴史研究会・おおつ歴史同好会・神奈川県歴史教育協議会横須賀支部・
神奈川県地域史研究会・久里浜史蹟の会・三浦半島の自然を学ぶ会・三浦半島の文化を考える会・三浦文化研究会・横須賀考古学会・横須賀史学研究会・
吉井・池田のすばらしい「ふるさと」を大切にする会・歴史探訪いずみ会・
神奈川県考古学会

平成5年11月22日

横須賀市議会議長 川 名 武 雄 殿

大塚古墳群の調査

横須賀市吉井・池田地区埋蔵文化財発掘調査団

大塚古墳群の調査については平成6年1月に調査を終了し、現在報告書作成中であるが、ここでは調査成果の概要について紹介したい。

大塚古墳群の調査は平成4年11月30日より平成6年1月24日に至る約14カ月間をかけて行われた。調査では新たに発見された古墳を含めて前方後円墳3基、円墳3基からなる古墳群であることが確認された。古墳群は後世の破壊によって大きく変貌し、培塚と考えられていた大塚4・5号墳は墳丘の一部が残存するのみであり、大塚2・3・6号墳は全く墳丘を失っていた。特に、古墳群の周辺は第2次大戦中の高射砲陣地構築による破壊が著しく、破壊は大塚古墳やその他の古墳にも及び、墳丘や周溝の一部が破壊されていた。

〔大塚古墳(大塚1号墳)〕前方後円墳。墳丘の全長31m、墳丘高3m(南側)、周溝の幅1.5~4mを測る。前方部と後円部の比高差は殆ど無い。後円部に主体部をもち、1952年に主体部の調査がされている。今回の調査では遺物は出土していない。

〔大塚2号墳〕前方後円墳。全長21m。周溝あり。断層による破壊が著しい。

〔大塚3号墳〕円墳。径15m、周溝あり。西側にブリッジ部をもつ。周溝内から須恵器短頸壺2・坏身2、土師器坏6・小型赤彩壺1がまとまって出土している。

〔大塚4号墳〕前方後円墳。全長19m、周溝あり。断層による破壊が著しい。主体部は2箇所検出されている。第1主体部は墳丘上から検出され(130cm-現存)×80cm、深さ30cmを測る。直刀2、刀子1、鉄鏃2が出土している。第2主体部は墳丘盛り土下から検出され、390cm×180cm、深さ70cmを測る。出土した遺物は刀子1のみであるが、主体部直上からは直刀2、ガラス製小玉56、土玉96が出土している。周溝内から須恵器横瓶が破壊された状態で出土している。

〔大塚5号墳〕円墳。墳丘径15m、周溝あり。西側にブリッジ部をもつ。主体部破壊。周溝から須恵器横瓶1、土師器坏1が出土している。

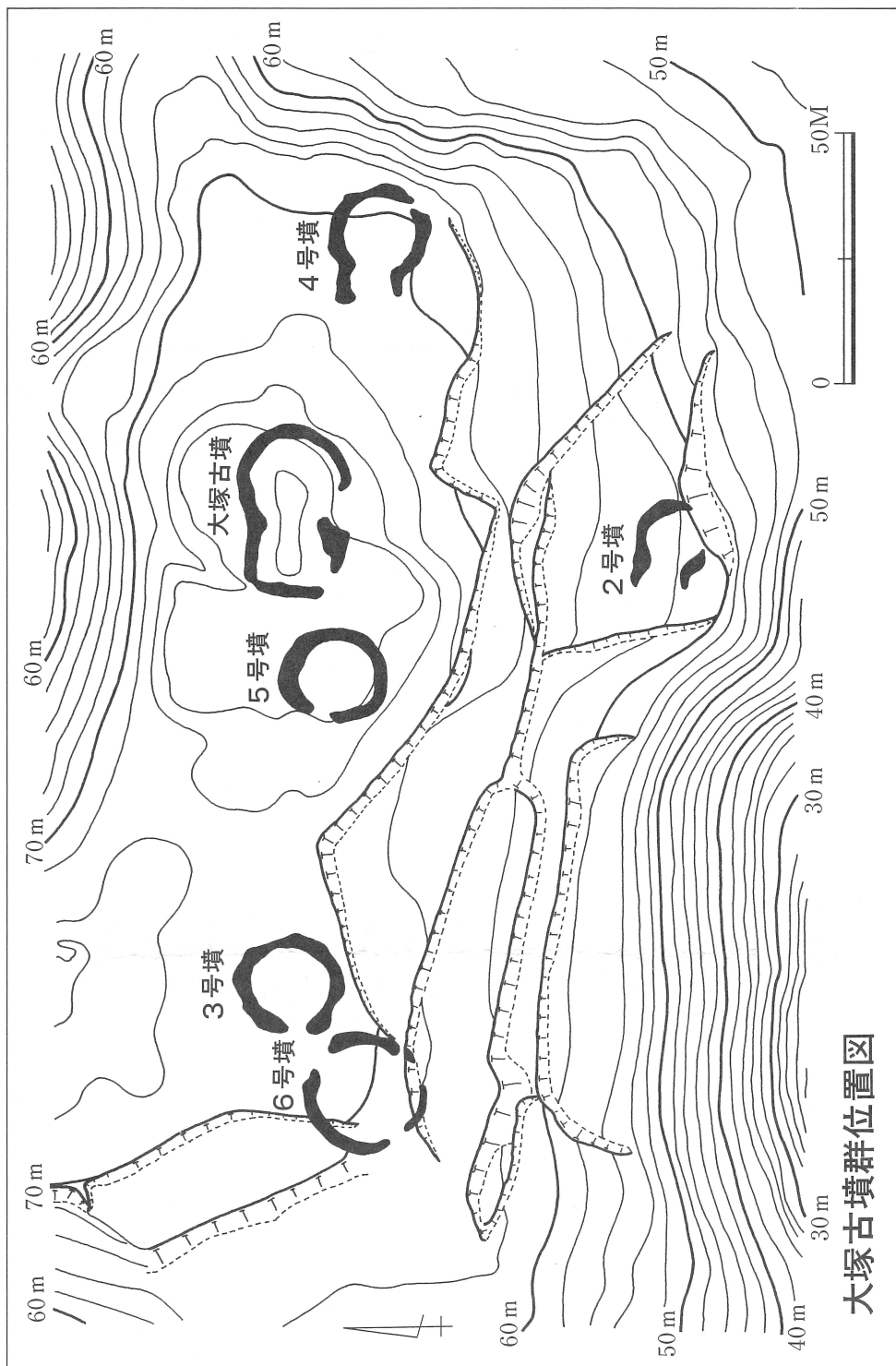
〔大塚6号墳〕円墳。径19m、周溝あり。北側にブリッジ部をもつ。周溝内から土師器坏1が



出土している。

保存要望が出されていた大塚古墳群は、土地
区画整理事業用地内の一角に復元保存されると

ともに、コンピューター・グラフィックスによ
るその形成過程再現を含めた資料映像によって
記録保存される予定である。



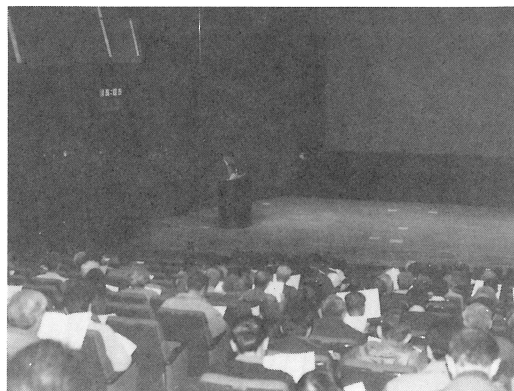
入門考古学講座 —「横穴墓とは何か」—に協力して

上田 薫

冒頭から楽屋落ちめいた話になるが、大和市の曾根氏に、神奈川県考古学会主催で古墳時代をテーマに入門講座を開催したいので、ついては相談に乗ってくれないかと悪魔のささやきを耳にしたのは、昨年の6月頃であっただろうか。安請け合いしたのかしないのか、そんな事はすっかり忘れていた秋になって、ご本人から催促の電話があり、ついには汗をグラグラ流した巨体が、私の担当する現場に姿を現した。こうなってしまうとは、もう逃げられない。企画の素案を練り、いつの間にか発表者の一人となり、はてはこうして感想文まで書いている。

さて、今回の入門考古学講座は「横穴墓とは何か」(平成6年2月6日、川崎市市民ミュージアム)というテーマであった。比較的地味なテーマでもあるにもかかわらず、当日多数の会員の参加を見たことは企画に参画した者の一人として実に喜ばしい限りである。

横穴墓研究は、近年飛躍的な進歩をとげつつある。そしてあまり知られていないのだが、明治以来これまでに刊行された横穴墓関係の報告書・論文の類を都道府県別に整理してみると、神奈川県関連のその数は実に200近くにも達している。この数は、私の調べた限りでは全国一である。さらに細かくいえば、戦後まもない昭和28年から平成5年までの41年の間、昭和43年を除きいずれの年にも神奈川県においては横穴墓に関する出版物が刊行されているのである。このことがなにを意味するのかといえば、実は神奈川県は、横穴墓に関する資料が全国で最も数多く公表されている地域として位置付けることができるのであるが、しかしながら、このよ



事例発表

うに多くの資料に恵まれているのにもかかわらず、その実態が系統的に整理され始めたのはごく最近のことであり、神奈川県という狭い地域の中に実に個性的な横穴墓が各種存在し、それらの分布の範囲が次第に解明されつつあるのが現状であり、その他まだまだ克服しなければならない数多くの問題を抱えている。

今回の講座で最も有意義であったのは、県内各地域の極めてバラエティーに富んだ横穴墓をスライドによってじっくりと実見し、比較・検討ができたことである。時間的制約があって今回はかなわなかったが、発表者間での簡単な質疑応答の機会がもてればより実りのあるものとなったであろう。今後の入門考古学講座の課題として提言したい。

入門考古学講座は、神奈川県考古学会として今回初めての試みであり、考古学という裾野の広い学問領域の、限られた一部分にスポットをあてて会員の方々に平易に研究の現状をご理解いただくといった主旨には心から賛同し、事務局の方々のご苦勞もお察ししますが、以後も継続してこのような講座を是非とも定期的に開催していただきたい。私としても、今後ともささやかながらご協力させていただきたい。

早春の鎌倉見学会

——「古都鎌倉を訪ねて」——

軽部 ——

3月12日、予報が遅れ、薄日のさす1時JRの鎌倉駅東口に集合した会員は約70人、人出の多い土曜日でも、ちょっと目立つ人数だ。鎌倉市教育委員会の松尾宣方会員の案内で浄光明寺に向かう。

泉谷山浄光明寺は6代執権北条長時が開基で四宗兼学の古刹であり、足利尊氏の奥方の実家、赤橋家との関係で北条氏や足利氏など有力者の保護が続いたお寺である。ここで、ご住職の日本考古学協会会員でもある大三輪龍彦氏より説明をうける。収蔵庫では宋様の土紋で有名な阿弥陀三尊像を拝観し、境内では代表的「やぐら」の綱引地藏や、冷泉為相の墓を見学する。

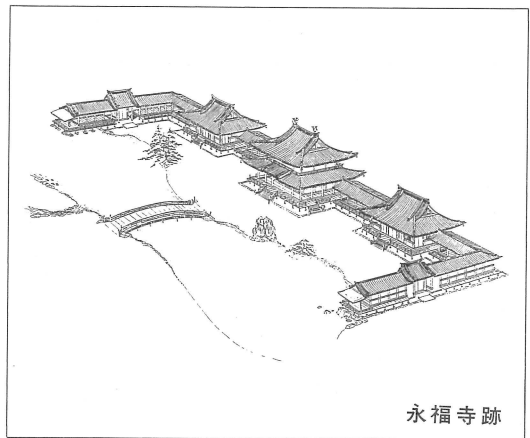
1時間後、次の永福寺跡に向かう。浄光明寺から八幡宮―頼朝墓―荏柄天神―大塔宮を通る約40分の道は結構歩きがいのあるコースであったが、天候が下り雨模様になってきたため、皆早足で進んだ。

二階堂永福寺は源頼朝が奥州平泉三代の文化の再現と戦没者の慰霊を兼ねて建立した東国第一の大寺院である。東側に広大な園池をもつ宇治の平等院を模した様式が考えられている。現



浄光明寺の見学

地で、やはり鎌倉市教育委員会の玉林調査員に十年間にわたる発掘調査からみた遺構の説明をうける。前もって用意されたパンフレットで概況がわかるためか、本降りになった雨の中でのあわただしい時間も苦にせね要領の良いものであった。埋め戻し後の何もない空き地に、かつての盛時を想像するのも、また考古学の会らしい一コマと思えた。雨足の激しくなった中、午後4時前小川裕久、白石浩之両幹事会員の挨拶の後、現地解散した。



永福寺跡

★郵便振替番号の変更

1994年5月1日より郵便振替番号が次のように変更しました。当会宛に会費(年3000円)を納入される場合、お間違えのないようお願いいたします。

加入者名は従来どうり「神奈川県考古学会」です。

旧口座番号 横浜4-71208

新口座番号 00240-9-71208

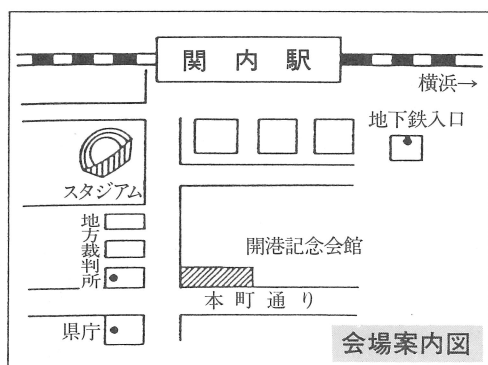
〈お訪ね〉 横浜市 [] 会員の転居先が不明です。お心あたりの方、お知らせ下さい。

《事務局》

総会のお知らせ

1994年度の総会を下記のとおり開催します。

- 日 時 1994年 5月28日(土) 13:00～
- 場 所 横浜市開港記念会館
(横浜市中区本町1-6)
- 議 事 (1) 1993年度事業報告
(2) 1993年度収支決算報告
(3) 1994年度事業計画案
(4) 1994年度予算案
(5) 特別講演会



『考古論叢 神奈河』第3集の刊行

本雑誌は神奈川県及びそれに関連するテーマの学術情報の発進を中心に、身近にある資料や日頃思っている研究上のヒントを紹介したものも合わせて掲載しています。会員の皆様と共により良いものに育てていきたいと考えておりますので、皆様の投稿をお待ちしています。

第3集は次のような内容で発行いたします。
神奈川県下の縄文時代の貝塚を概観して(序)……中村若枝
大磯丘陵の高地性遺跡……岡本孝之
古代本郷遺跡の一特質—KE・RC地区の建物群とその評価—……大上周三
鎌倉における出土遺物の個体数調査—鎌倉市佐助ヶ谷遺跡の出土飲食器を中心として—……
……資木秀雄
(資料紹介) 藤沢市No.399遺跡出土のB4層遺物

群について……関根唯充
(資料紹介) 川崎市麻生区高石遺跡の一字一石経塚……後藤喜八郎
(資料紹介) 大和市神明若宮地区内発見の近世梵鐘遺構……村澤正弘
B5版、刊行は5月になります。

1993年度役員会記録

- 第1回 1993年 5月16日(日)県立埋文センター
議題 ◦ 1993年度総会開催準備 他
 - 第2回 1993年 8月 6日(木)県政総合センター
議題 ◦ 第17回遺跡調査・研究発表会の準備
◦ 三浦市洞穴遺跡見学会報告
◦ 入門考古学講座について 他
 - 第3回 1993年 9月 9日(火)県政総合センター
議題 ◦ 第17回遺跡調査・研究発表会の準備
◦ 横須賀市大塚古墳群について
◦ 「考古かながわ5」、「考古論叢神奈河3」の発行について
◦ 入門考古学講座について 他
 - 第4回 1994年 1月14日(金)県政総合センター
議題 ◦ 入門考古学講座の開催について
◦ 「考古論叢神奈河3」編集状況 他
- なお、昨年の総会で役員会に一任されておりました役員補充については、茅ヶ崎市在住の降矢順子会員にお願いすることが、第3回役員会で決まりました。降矢さんには普及担当委員をお願いしました。

考古かながわ 第6号

発 行 神奈川県考古学会
発行日 1994年 3月31日
編集者 伊藤 郭、川口徳治朗、小宮恒雄、後藤喜八郎、塚田順正
事務局 東海大学文学部考古学研究室内
〒259-12 平塚市北金目1117
郵便振替 00240-9-71208
神奈川県考古学会
印刷所 東邦印刷株式会社